

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最近のように仕事が細分化し、機械化されると、人間は部分品のようになって、個人の創意などまったく無視されてしまう。いやいやながら一定の時間を働き、給料をもらい、残った時間でやっと自己をとりもどす、というのが、現代の多くの職業の実状であろう。いうまでもなく、職場そのものは元来喜びの場ではなければならないはずだ。働く喜びというものがあるはずだが、現代の強大な機械化の傾向は①これを奪った。そのためわれわれは二つに分裂している。職場の自己と職場外のと。A ①後者の方に辛うじて人間としての生き甲斐を見いだそうとしている。少なくともこうした矛盾のうちに暮らしている人が多いと思う。

昔は天職という言葉があった。自分の仕事を忠実に守り、喜びを感じ、生涯をかけて悔いがないという気持ちがあった。今でも B ②そういう人がいるはずだが、ほとんど古風な存在と化したようである。中世紀的存在となったようである。職業というものがただもう機械的にくりかえされる「地獄」として感じられるようになった。③たとい自ら選んだものであっても。

④こうした矛盾を深く自覚した人は絶望するだろう。いやいやながらの仕事は一種の死である。生きつつ死を経験しているようなものだ。そのつらさから眼をそむけるために「気晴らし」の方法が発達し、矛盾を適度に麻痺させ、忘れさせてくれるのではなからうか。C 職業が機械化されず、個人の創意がみとめられる場合でも、長いあいだ一つの職業に従っていると、それを呪うようになることがある。どんな仕事でもつらさを伴う。つらさの連続とっていい。そういうとき、なぜ自分はこんな仕事を選んだのかと悔恨の気持ちを抱くことさえある。D 一流の職業人あるいは二十年三十年と年期を入れた人にとっては、職業とは一つの「ペシミシズム」ではあるまいか。それによって生きながら、それを呪うのである。

しかし、この矛盾を自覚することが、人生を自覚することではないだろうか。人間は人生と自己を呪いながら、それを活力とするものではなからうか。E 矛盾が生のものである。人間は永遠の不平家なのだ。職業にとつていちばんおそろしいのは矛盾の前にあきらめてしまふところからくるマンネリズム―緩慢な死である。

(注) \*天職 天から授けられた仕事、の意。その人が満足して従事している職業。

\*中世紀的存在 ここでは、機械化された近代に対して、それ以前の手工業的な時代の存在ということ。

\*年期を入れる 年季」とも書く。その仕事に対する経験を積む、の意。

\*ペシミシズム 悲観的、厭世的なものとする考え方。

\*活力 活動のものになる力。

\*マンネリズム 一定のやり方が繰り返されるだけで、新鮮みも感動もないこと。

\*緩慢 物事の変わり方や進展がおそい様子。動作がのろいさま。

問一 

A
↳
E

 にあてはまる語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- a むろん      b ところが      c つまり  
d そして      e おそらく

問二 傍線部⑦の指示しているものを文中からそのまま抜き出して答えなさい。

問三 傍線部⑧の「後者」とは何か。簡潔に答えなさい。

問四 傍線部⑨はどんな人か、文中の語句を用いて、「……人」で終わるように答えなさい。

問五 傍線部⑩の一文は普通どこに書かれるべきか、その書かれるべきところの直前の十字を書き、また、こうした書き方は文章表現の技巧上何と云うかを答えなさい。

問六 傍線部⑪が指示している一文の最初と最後の五字をそれぞれ抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑫に「不平」とあるが、それはどのような場合に生じるものか。全文から考えて、二つの場合を答えなさい。

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- |             |              |              |
|-------------|--------------|--------------|
| ① 生徒をゲキレイする | ② 協力をコンガンする  | ③ 自由ホンポウ     |
| ④ 日本一のコウホウ  | ⑤ 老人をフジヨする   | ⑥ ケンメイに努力する  |
| ⑦ コダイな表現    | ⑧ ヨイゴシの銭は持たぬ | ⑨ シユザンを習う    |
| ⑩ 下手なサルシバイ  | ⑪ 数々のケツサクを残す | ⑫ リンモウの狂いもない |
| ⑬ 美しい丘陵地帯   | ⑭ 戸籍謄本を取る    | ⑮ 断崖にかかる栈道   |
| ⑯ 煩雑な規則     | ⑰ 拍手喝采を浴びる   |              |